



一人一人に合ったメニューを指導する三宅一広代表（中）



小学生から60代まで幅広い人が集まる



リングで激しいスパーリングをするプロ選手



2階にはフィットネス専用の部屋もある

すべての人に ボクシングを 楽しんでもらうために

フォー・オール・ボクシングコミュニティ

「名前が示す通り、ボクシングをしたいと思うすべての人を受け入れるのがうちの一番の特色です」と代表の三宅一広さん。ジムでは小学生から66歳までの約200人が、それぞれの目標に向けて思い思いにボクシングを楽しんでいる。

ボクシングを生涯スポーツとして

ムエタイ(タイ式キックボクシング)チャンピオンを目標に掲げる高校生がミットめがけて強烈なパンチを打ち込む横で、仕事帰りに汗を流したいという50代の男性が鏡に向かい、フォームを確かめながらシャドーボクシングに没頭している。リング上ではプロの選手が激しいスパーリングの最中だ。多くのボクシングジムが、プロボクサー向けもしくはエクササイズ向けのどちらかに特化する中、「フォー・オール・ボクシングコミュニティ(FABC)」は老若男女に、目的を問わず門戸を開いている。

大学3年の時にボクシングに出合った三宅さん。社会人になってからもプロの道をあきらめきれずボクシングに打ち込んでいたが、その練習に時折、一

般の人が交じて楽しんでいる姿を見て驚いた。「ボクシングといえばプロを目指す人だけに許されたスポーツだという思い込みが見事に崩れました」

2004年当時、プロとしてリングに上がる資格があるのは37歳まで。その年齢を過ぎ、心に空白ができた三宅さんは大手繊維会社を退社し、指導する立場でボクシングにかかわろうと、ジムの開設を決めた。周囲から「マーケティングの基本は顧客を絞ること」とアドバイスを受けたが、「ボクシングを誰もがいくつになっても楽しめる生涯スポーツにしたい」との信念から、あえて「すべての人に」という言葉を経営理念に掲げている。

それぞれに合わせたメニューを

ジム開設の2005年に、初のプロ選手

が誕生し、さらにK-1ファイターと戦えるレベルの選手も出てきた。一方で、ボクシングは闘争本能を刺激するスポーツだけに、プロまでは目指さなくとも試合には出てみたいという人は多い。その受け皿として初・中級者向けのボクシング大会「神戸カップ」を08年から開催。今年3月の大会には、40人もの会員が参加した。

大半の会員はダイエットや健康増進を目的に通っている。毎週火曜日と木曜日にはフィットネスボクシングの時間を設け、気軽に習い事感覚で楽しんでもらえるように工夫している。その日の雰囲気や会員のレベルに合わせて即興のトレーニングを始めるのもFABC流だ。

開設時から通い続ける川崎佐恵子

さんは、娘の結婚式を控えダイエットをしたいと入会。短期間で大きな効果を得た。「体が軽くなり、おしゃれも楽しくなって人生が変わりました」と生き生きとした表情で語る。

「それぞれの人が望むことを、ボクシングを通してかなえるのがわれわれの役割」と三宅さん。そこには常に「フォーオール」の精神が貫かれている。

【データ】
フォー・オール・ボクシングコミュニティ
設立：2005年9月
代表：三宅一広
従業員数：7人
所在地：神戸市中央区北長狭通5-1-21
福建会館1F
電話：078-371-8298
<http://fabo.jp/>